

秋兩度町方に右之族之者有之候。尤賤物は無御座候得ども、急度吟味仕、向後御縮相立候様申渡候。町方之儀は、町奉行申渡相止可申候へども、御家中奉公人・浪人・若黨・若者・隱質取申者有之様に風聞仕候。右之趣心得違にて、不苦儀と存候者も有之様に御座候間、向後隱質取申儀無之様、一統被仰渡有之様仕度奉存候。以上。

十一月八日

高昌 木工

横山大和守様

隱質之儀に付、高昌木工紙面寫別紙之趣候條、組・支配之人々家來末々迄申渡、組等之内裁許有之面々は、是又夫々申聞候様被申渡、尤同役中可有傳達事。

十一月十九日

横山大和守

八六 他國者金澤に滞留之節届

出候儀觸

御當地に他國者罷越候節は、御家中侍中・寺社方・町方等其宿々より一統及斷、罷歸候節も相斷候儀、前々より御縮に

御座候。諸商賣人之分は町方に罷越候故、町方より不相洩及斷候様に御座候得ども、御家中侍中始寺社方・又家中并門前地・御郡地等よりは斷相洩申族も有之様に御座候。商賣人之外浪人者・醫者之類・町人、且又寺方等にはより罷越候者、并旅僧召連候下人等不及斷、指置段罷越候砌一通及斷候ても、其以後數月差置候内御當地者に罷成、御家中并寺庵方納所等相勤罷在候様子にて紛敷、第一旅役者類相改申節之障にも罷成申候間、先規之通他國者往來共斷之儀は勿論、奉公人に召抱、縦届分相極置候ても、其主人々より裁許支配頭等相届、其宿々よりは私方に及斷候様仕度奉存候。且又大正持・富山之者与申儀、請人等荷擔仕、奉公仕候者も有之様に御座候條、御家中侍中始、寺社方・町方等一統被仰觸候様に仕度奉存候。以上。

十一月四日

高昌 木工

横山大和守様

御當地に他國者罷越候節、御家中侍中・寺社方・町方等其宿々より、一統及斷候儀相洩申族も有之跡之旨、高昌木工別紙寫之趣に候條、被得其意、組・支配家來末々まで嚴重被

申渡、組等之内裁許有之面々は、夫々相達候様被申聞、同役中可有傳達事。
右之趣可被得其意候。以上。

四月廿六日

横山大和守

八七 女を抱置人集仕事停止之

儀觸

女を抱置人集仕事多有之由に付、今般高昌木工に被仰渡、急度遙吟味申管に候。向後ケ様之者於有之は、本人は急度曲事に被仰付、近隣は所拂に可申付旨被仰出、則町奉行等々に申渡候。就夫御家中侍中長屋・借屋守等、右之族之者無之様に急度可被申渡候。且又浪人者等家來分に仕、借地又は借屋・屋敷守等に差置候人々も有之由に候。ケ様之儀は一向有之間敷儀に候處、不心得之至に候。向後右之族無之様、組・支配に急度被申聞、組等之内裁許有之面々は、其支配にも不相洩様被申渡、同役中可有傳達事。

六月十八日

奥村 助右衛門

八八 五千石以下之面々大鷹停止之儀觸
五千石以下之面々、大鷹所持不仕、兄鷹も弟鷹同事に候。就夫遠方より鷹連寄、籠之封切に指越相改、若間違等にて知行高相違之鷹に候ば、鷹は御鷹部屋に繫置、其段御鷹取次どもより若年寄中に相達候管に候條、被得其意、組・支配之人々不相洩様被申渡、同役中可有傳達事。
右之趣可被得其意候。以上。

十一月廿四日

奥村 助右衛門

八九 納涼其他夜行之儀に付觸

先頃より淺野川・犀川兩橋邊并河原、其外町方小路々々共涼に罷出候男女多御座候。跡々より此節は、夜行仕候者多方に御座候得共、當年は別而所々共に涼に罷出申族も多、其上酒狂人惡口狼藉之族も有之跡御座候。依之手合之役人ども繁々申渡爲相廻申候。惣而女誘引夜行仕儀、且又御留守中向闇夜提燈不申儀は、御停止に御座候處、右之族も